

浜の活力再生交付金

水産振興課

浜の活力再生交付金の概要

1 事業の目的

・浜の活力再生・成長促進交付金

漁業所得の向上を目指す「浜の活力再生プラン」の着実な実行を支援するため、自ら浜プランの見直しを行う活動や、浜プランに基づく共同利用施設の整備、水産資源の維持管理、漁港漁場の機能高度化の取組を支援する。

※「浜の活力再生プラン」は、漁村地域の真の活性化を目指すため、漁業者自らが漁業収入の向上とコストの削減のために具体的な対策に取り組むプラン。

実施期間は原則５年間で、「所得の向上１０％」を目指す。

・水産業競争力強化緊急施設整備事業

意欲ある漁業者が将来にわたり希望を持って漁業経営に取り組むことができるよう、「浜の活力再生広域プラン」に基づく産地施設の再編整備等を支援することにより、持続可能な収益性の高い操業体制への転換を推進する。

※「浜の活力再生広域プラン」とは複数の漁協が連携し、浜の機能再編や中核的担い手の取組を策定するために具体的な対策に取り組むプラン。実施期間は原則５年間で、水産業の競争力強化に資する目標（魚価向上等）の達成を目指す。

2 事業の内容

・浜の活力再生・成長促進交付金

（１）浜の活力再生プラン推進事業

浜プランの着実な実行を支援するため、プランの見直しに関する活動に対して支援
※交付金は県を通らず直接事業実施主体に交付。Ｒ６年度県内実績無し。

（２）水産業競争力強化支援事業

浜プランを上位計画と位置づけ、プランに位置づけられた共同利用施設の整備、プラン策定地域における水産資源の管理・維持増大・漁港漁場の機能高度化や防災・減災に必要な整備等を支援する。

・水産業競争力強化緊急施設整備事業

「浜の活力再生広域プラン」に基づき、競争力強化のために必要となる共同利用施設の整備、産地市場の統廃合の推進に必要な施設の整備及びそれらの施設に関連する旧施設の撤去を支援する。事業計画にあたっては、競争力強化のための説明（輸出の強化・輸入品との競合によるシェア獲得等）が必要であることに留意する。

- ・ 国交付率 国 １／２以内 県 なし
- ・ 実施主体 都道府県，市町村，水産業協同組合等
- ・ 事業タイプ ハード事業のみ
- ・ 対象施設 養殖施設、荷さばき施設、鮮度保持施設等

3 令和７年度事業の概要

小松島市和田島地区において鮮度保持施設の整備を行う。（別紙のとおり）

和田島漁業協同組合による鮮度保持施設の整備について

1 目的

小松島市和田島地区では、保冷時間の長い「プレート氷(砕氷)」の需要が増加し、既存施設では供給量が不足している。現状は、不足分を外部から調達しているが、人力による供給作業が必要である。

さらに、令和4年より土曜日の外部調達ができなくなり操業機会を逸失してしまっている。

船びき網漁業の操業機会を確保し、経営の安定、向上を図るため、製氷・貯氷施設の整備により、プレート氷を安定的・自動で供給し、省力化により持続性を確保する。

また、安定した氷の供給により、主要取組対象魚種(シラス)の平均単価の向上を図る。

2 事業の概要

単位：千円

タイプ	メニュー	補助率	事業費	補助金
水産業競争力強化緊急施設 整備事業	鮮度保持施設	1 / 2	1 2 3, 6 8 5	6 1, 8 4 2

3 施設の整備概要

小松島市和田島地区の港湾に、プレート氷供給の安定的・自動供給のため製氷・貯氷施設を整備する。

- 工種、事業量
- ・製氷建屋増設鉄骨2F建 57m²
 - ・製氷機 製氷5トン／日
 - ・貯氷庫 貯氷10トン

4 施設整備により得られる効果

① 人件費の削減

整備前：775千円（令和5年実績）⇒ 整備後：0円 775千円の削減

② 操業機会の増加

整備前：107.0日／年 ⇒ 整備後 115.7日／年（R1-R3平均実績）8.7日の増加

5 成果目標

イワシシラスの水揚げ量

現状 2, 167, 645kg → 目標（R9年度） 2, 335, 080kg

水産業競争力強化緊急施設整備事業概要								総事業費	171,690千円
地区名	和田島地区	事業実施主体	和田島漁協	都道府県	徳島県	市町村	小松島市	うち国費	85,844千円
				対象施設	鮮度保持施設		事業期間	R6事業費	123,685千円
								うち国費	61,842千円

地域の現状と課題

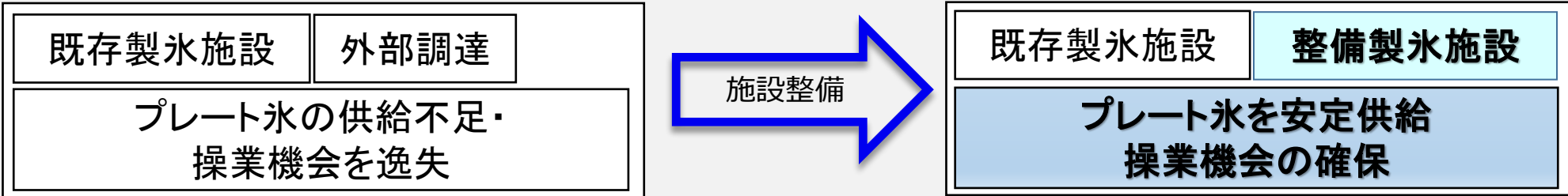
- ・船びき網漁業が盛んで当地区の水揚げの中心。
- ・主な漁獲物であるイワシシラスの鮮度保持には氷が不可欠。
- ・保冷時間の長い「プレート氷（砕氷）」の需要が増加し、既存施設では供給量が不足。
- ・不足分を外部から調達しているが、人力による供給作業が必要。
- ・令和4年より土曜日の外部調達ができなくなり操業機会を逸失。
- ・インドネシアのTPP加入により「ちりめん」の輸入量が増加し、懸念。

事業の目的

- ・船びき網漁業の操業機会を確保し、経営の安定、向上を図るため、製氷・貯氷施設の整備により、プレート氷を安定的・自動で供給し、省力化により持続性を確保する。
- ・安定した氷の供給により、出荷物の品質向上が図られ、浜の活力再生広域プランで目標と定めた主要取組対象魚種（シラス）の平均単価の向上を図る。



事業内容



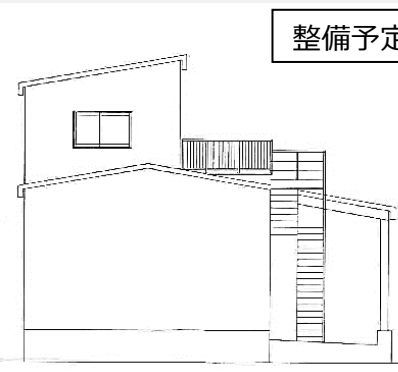
・製氷・貯氷施設の整備により、不足分の外部調達の廃止 ⇒ プレート氷供給の安定的・自動供給による持続性の確保



【整備前】
・氷の不足分は外部調達し、人力で供給作業



【整備後】
・自動送氷による、省力化や操業機会の確保
・規格：鉄骨造2階建、製氷5t/日、貯氷10t



整備予定図



周辺位置図

成果 目標	イワシシラスの水揚げ量	現状値	目標値	実績値（実施後に記載）
		2,167,645kg/年	2,335,080kg/年	○, ○○○kg/年